

4. 一般講演3「土着民家の建設方法の伝承に観る建築に関わる知の形式」について

Q: アイヌは書き言葉がないのだから、語られた言葉以外の記号（例えば他の家や木の形など）的要素は考慮されないのでしょうか？

A: 語ることができなくても目に見えるものごとを示して伝えられる場合もあります。資料とした「チセ・ア・カラ」はアイヌ民家を建てる過程の記録ですが、建設過程の写真も多く掲載されています。

正確な内容を直截的に語れなくても、その内容（家の形）を構成する手順を語ることによって、結果として形を伝える方法もあると思います。別の観方をすると、言葉以外の記号を用いなくても伝承可能な形が（アイヌ民家に限らず）家屋の原型として残っているのかもしれませんが。

私の研究の方向性としては、言葉（マニュアルや論文のような直裁的なもの、物語や神話のように間接的なもの）で何をどこまで伝承できるかを探究することに興味があります。加えて、実物とか写真とか録音物とかのような他の媒体と言葉との補完的な関係にも興味があります。

Q: 建築物が環境に合うように作成されるということでしたが、建築物が環境に変化を与え、環境そのものを変えてしまうということ、永久に解に達し得ないのではないのでしょうか？

A: ご指摘の通りです。研究会スライドにおける西田幾太郎の「行為的直観」の引用はそのことも示しています。建築に限らず、人工物の創造には同様のことが言えるでしょう。ある条件に適合する仕様を「解」とするならば、「普遍的な」解はそもそも存在しないかもしれません。写真で示したアイヌ民家の形態は17~19世紀頃の「解」としての形であり、現代も通用する「解」であるとは言えないでしょう。建物の仕様としての「解」は得られないとしても、構成方法としての「解」はあるのかもしれませんが。

Q: アイヌの記述要領に学ぶべき所があれば示して頂ければと思います。

A: 談話分析の途上にあり、まだ的確な回答ができません。言葉による伝承が「近代科学的」な伝承で伝えられないものごとを伝える方法を明らかにしたいと考えています。そのような方法があれば、それが学ぶべき所であると考えています。

Q: アイヌ民族の「家」について大変新鮮な印象を受けました。

Q: 文学的 QUOTATION が見られ、みずみずしいイメージが沸いた。

A: ありがとうございます。

Q: 口承で建築知識を伝えたという事が驚きだった。筆記用具がなかったのだろうか。

Q: アイヌの知識は口承というのは初めて知った。

A: アイヌは口頭伝承によって多くのものごとを伝えているそうです。詳しくはアイヌ文化の専門研究を参照されるとよいと考えます。アイヌ民家に限らず、民家を建て方に関する記述はほとんど残っていません。民家(庶民の住宅)は集落の人々で作っていたでしょうから(大工は寺社や宮殿を造る)、文字の読み書きができる人が少なかったのかもしれませんが(あくまでも推量です)。

Q：文字のない文化において、このような知の伝承はどのように行われてきたのでしょうか？ 例えば家は専門家ではなく皆で建てたという話でしたので、この家の造り方は全員が知っていたのでしょうか？ または家の造り方を知っている特別な人がいたのでしょうか？

A：推量ですが、全員が家の造り方を知っていたということはないと思います。「親方」とか「棟梁」とかに相当する人や将来そのような役割を担う人が全体を把握しており、他の人は一部の作業だけを知っていたのかもしれませんが、知の伝承の方法は口頭と実地訓練ではないかと思います。

Q：信仰則という普段考えない視点が面白かった。

A：かつての建築や都市の計画では、風水、家相、神話など、信仰的なものごとを根拠とする規定が重要な役割を担っていたと思います。近代科学はそれらを客観的、論理的、普遍的に説明しようとし、説明できないことは迷信として扱ってきています。それはひとつの観方であると思いますが、そういう「近代科学の網の目」からこぼれ落ちるものごとの中にも重要なものごとがあると考えています。

Q：物語を利用して、暗黙知から暗黙知への伝承は有効だと思うのですが。

A：賛成です。口頭伝承はそうやって暗黙知を伝える方法のひとつになっているのだと思います。意識的に暗黙知を埋め込んでいるわけではないのかもしれませんが、私たちが暗黙知を物語に埋め込む方法を知り得たとしたら、暗黙知の伝承が促進されると期待しています。

Q：吉川流の「人工物工学」の建築学への納得のいくあてはめを初めて耳にした気がする。私が不勉強なだけかもしれないが。

A：人工物工学の観点を意識して建築研究に取り組んでいる研究者は少ないのかもしれませんが。

Q：非常に興味深いと感じました。（NP完全と言われればそうかと思いましたが..）口伝の構造は気になります。

A：ありがとうございます。談話分析をする予定にしております。

Q：分野がちがったが興味深い内容でした。

A：ありがとうございます。私も、鑄造や医学の分野での知の伝承方法を伺い、知の伝承の方法にはドメインに依存する部分とそうでない部分とがあると感じました。

Q：知の構成される過程のモデル化がどのようになるのか楽しみです。

A：ありがとうございます。できるだけ早く完成させたいです。

Q：伝承とは、最も基礎的なことを的確に伝えることに尽きるのかと思った。

A：最も基礎的なことというより、（その文化で）最も重要であると考えていることを伝えているのだと思います。